教育広報 南会

編集・発行　福島県教育庁南会津教育事務所
発行責任者　佐　藤　則　之
編 集 協 力　市町村教委連絡協議会南会津支会
南会津郡小中学校長協議会

『　教師の赤ペン　』

福島県教育庁南会津教育事務所長
佐　藤　則　之

自主学習ノートを返すと子どもたちは、必ずと言っていいほどノートを開き、書かれてある担任のコメントを探す。私は子どもたちのその表情をみるのが好きだった。隠すようにみる子、そーっとのぞく子、にこにこしながらみる子…。一人一人が、いつもそのコメントを待っていてくれた。

赤ペンはテストの採点だけではなく、ノートや作品へのコメント等、様々な場面で使用していた。管理職になっても、赤ペンは常に持ち歩き、授業のときは勿論のこと、教室訪問のときにも持ち歩き、担任の了解を得た上でコメントを書いたり、丸をつけたりと使用していた。ともあれ、赤ペンは私が教員生活を続ける上で無くてはならない文房具の一つであると言える。

担任していた頃、日直で校舎巡視をしながら、各教室で子どもたちの作品や掲示物にどんなコメントが書かれているのかを見せて頂いた。教職経験を重ね素晴らしい学級経営をされている先生が書いたコメントは大変勉強になった。深い子ども理解とぶれない学級経営方針が溢れ出るようなコメントを、私も書くことができるようになりたいと思った。

学校訪問時に、子どもたちの作品やノートに、教師の赤ペンが入っているとうれしくなってくる。子どもの思いに教師が応えているからである。教室の中では他の子どもの目もあり、面と向かって伝えられないことや、子どもからの相談等に対しても、赤ペンで会話することができる。日々のそのような関わり合いの中で「児童生徒と教師のよりよい人間関係」が創られていくのではないだろうか。子どもの心に働きかける魔法のペン、「たかが赤ペン、されど赤ペン」である。子どもの作品や自主学習の足跡と向き合ったとき、スタンプ一つ押す手間を省き、赤ペンで会話することも、子どもとの信頼関係を築くことにつながるのではないだろうか。構えることなく、格好をつけることもなく、子どもに伝えたい想いをコメントとして書き綴っていく…。これも子どもと向き合う教師修行の一つであると考えている。

『 奇跡を賞賛していい？いいんです！ 』

南会津郡小中学校長協議会長
馬　場　俊　忠

６月１９日にサッカーのロシアW杯で日本がコロンビアに２対１で勝利するという「サランスクの奇跡」が起こりました。今までのW杯でアジアのチームが南米のチームに勝ったことがなかったということで日本中が大いに盛り上がりました。１９９６年のアトランタオリンピックの対ブラジル戦で「マイアミの奇跡」を起こした日本代表のことを思い出しました。このことを学校で話題にしようと思いましたが、もはや２０年以上も前のことであり、若い先生方や生徒は知らないのではとあえて触れませんでした。

学校でもこれほど大きなことではありませんが「奇跡」「奇跡に近いこと」は毎日のように起きています。「A君が今日は遅刻しなかったよ。」あるいは「Bさんが漢字の豆テストで満点とったよ。」などのように私たちがびっくりすることが起きます。このときの対応次第で、この「奇跡のようなこと」がこれから先に「普通のこと」となるかどうかの瀬戸際だったりします。「へえ～、今日は遅刻しなかったんだ。」「珍しく満点とったな。」などと対応した場合には、二度と奇跡は起きないかもしれません。

子どもたちに限らず、我々大人であっても褒められることや認められることがないとやる気が起きません。教職員の一挙手一投足が子どもたちのやる気や学校生活に大きな影響を与えることを肝に銘じる必要があります。教科の学習や日常生活でも学ばないとできないのは当然ですが、小さくてもいいので何か良い変化を見つけて認めることが必要だと思います。子どもでも大人でも。

最後に、あえて「サランスクの奇跡」を話題にしなかったのは「マイアミの奇跡」の時はグループリーグを突破できなかったことも頭の片隅にあったことを付け加えておきます。頑張れ日本！頑張ろう南会津！

南会津夢教育２０１８
～　南会津の風土を踏まえ　一人一人が夢をかなえられる教育を目指して　～

『南会津』がつむぐ南会津ならではの学校教育！

確かな学力

県教育委員会では、今年の３月に、プラン策定後の状況変化を踏まえて「頑張る学校応援プラン」を一部改定し、施策を推進しています。

その中の主要施策１として示されている「学力向上に責任を果たす」には、「本県の学力の現状に危機感と責任感を持ち、教育委員会を挙げて対処する」との強い決意が表れています。その具現策として、ふくしまの「授業スタンダード」は子どもたちの資質・能力の育成、先生方の授業の質の向上のよりどころとして、現在広く活用されています。また、自己マネジメント力の向上を目指して全家庭に配付された、ふくしまの「家庭学習スタンダード」も学校・家庭・地域の連携、家庭学習の充実という視点から、今後のよりよい活用が大いに期待されています。

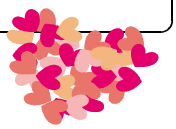
域内では、５月２３日（水）、第１回学力向上担当者等研修会が開催されました。校内研修の活性化のために、児童生徒の変容に視点をあてた互見授業と事後研究会を推奨し、その方策について協議しました。またふくしまの「家庭学習スタンダード」の活用方法について、各校の実践事例の情報交換を行いました。

豊かなこころ

今年度より小学校において「特別の教科　道徳」が全面実施となりました。年間３５単位時間を確実に実施する「量的確保」と、子どもたちが道徳的価値を理解し、これまで以上に深く考え、自覚を深める「質的転換」が求められています。また中学校においても、次年度の全面実施に向けた本格的な準備期間に入りました。どの学校においても、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、そしてよりよい評価の在り方については、大きな課題となっています。今後、域内では次のような取組を推進していきます。

- ○　７月１３日（金）、域内の道徳教育推進校である南会津町立舘岩中学校の研究において、宇都宮大学の和井内良樹准教授をお招きした授業研究会を行いました。
- ○　１１月１２日（月）の地区別推進協議会では、舘岩中学校教員による公開授業と研究協議会、教授による提案授業、講演等を行います。
- ○　８月７日（火）の「特別の教科　道徳」の実施に向けた地区別研修会においては、「指導と評価の一体化」をテーマとした行政説明、演習等を行います。

これらの研修を通して、自校の道徳授業の更なる充実につなげてください。



健やかな体

今年度、「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト」の体力向上ムーブメント事業として『みんなで跳ぼう！なわとびコンテスト』が実施されます。

「長なわ八の字飛び」クラスで一致団結　レッツトライ

【目的・趣旨】

- ○　小学校児童の日常的な運動機会を増やし、子どもの体力向上を図るため、クラスメイトと協力しながら他校児童と競争する機会を設ける。
- ○　なわとびは、どの学校でも実施できる運動であり、わずかな時間でも手軽にできることから短時間での運動機会の確保が可能である。

【内　容】

- ○　学級全員参加を原則（３部門）
- ○　制限時間３分で跳んだ総計を記録
- ○　ＷＥＢ上で記録を登録、順位化

運動の二極化が問題視されるなか、仲間と協力し合い、励まし合って運動に親しみ、楽しみながら体力向上を図ることができる取組です。特に、南会津は、運動場所が限定される冬場に大きな効果が期待できると考えます。学級の団結力を高め、学級全員で達成感を味わうこともできるこの取組に、ぜひ、レッツトライ！

特別支援教育の充実

南会津地区における特別支援学校の新設計画がいよいよ現実味を帯びてきました。去る６月２９日（金）付けの福島民報、福島民友に掲載されたように、南会津町の旧檜沢中学校校舎を活用して整備を進める方針であることが明らかになりました。特別支援学校の新設により、支援が必要な児童生徒にとって、より多様で柔軟な学びの場が保証され、個々の教育的ニーズに応じた支援ができるようになります。平成３０年代半ばの開校に向けて、家庭、学校、地域が連携し、最適な支援につなげることが大切です。

５月３１日（木）の第１回特別支援教育体制促進協議会では、域内における「切れ目のない支援と引き継ぎ」について意見交換を行い、その重要性を再確認しました。「切れ目のない支援と引き継ぎ」には、個別の教育支援計画の作成と効果的な活用が必要不可欠です。今年度は、域内各校の個別の教育支援計画の様式統一に向け、各町村教育委員会を始め各関係機関と協議を進めていきたいと考えています。実現を目指して、御理解と御協力をお願いします。